

（トラック①、夏の午後、遠くで鳴く蝉時雨、風鈴の音がチリンと響く）

（耳元、至近距離、慈愛に満ちた、しかしどこか粘着質な甘い声）

（やや右・近）

ふふっ。

おや、坊や、どうしたのじゃ〜

随分とあどけない顔でトロけておるのう。

ふふっ、わしの太腿は、

そんなに心地よいか。

着物越しに伝わる温もりと弾力が、

お主を駄目にしておるのかえ。

（頭を撫でる音、衣擦れ）

愛いのう、愛いのう。

この寂れた神社に足繁く通い、

こうしてわしを求めてくれるのは、

今やお主だけじゃ。

……ふい

ほれ、では特別に、

もっと気持ちよくしてやろう

坊やの敏感な耳の穴に、

わしの熱を、

たっぷりと注ぎ込んでやるからの〜。

（耳元へ顔を寄せる気配、生暖かい吐息がかかる）

(右・密着)

(右耳、ネットリとした呼吸)

(なんども息を吹きかける 8秒)

どうじゃ？

わしの体内で温められた、

湿った息じゃ。

甘い蜜の匂いがして、

蕩(とろ)けるようじゃろう。

ほれ、もっと奥まで、たつぷりと…

(強く吹き込む)

ふ~~~~♡

ふふ…ビクビクと震えおって…

坊やは(こ)が弱いのを、

正直な身体じゃ。

(舌なめずりの音)

全身の力が抜けて

頭の芯まで、

わしの甘い匂いで満たされていく。

気だるくて、熱くて、

何も考えられなくなるじゃろう。

ほれ、ほれ。

(息を吹きかける、5秒)

(執拗に息を吹きかけながら、指先で耳輪をなぞる)

(右・近)

おや？ ふふふっ、なんじゃ坊や…

わしはただ、

お主の健康を祈って、

精氣を与えておっただけじゃが……

股間のあたりが、

随分と、もぞもぞしておるのう。

（視線が下腹部へ落ちる）

（布が擦れる音）

ふふっ、あはは。

まあ、なんと浅ましい♡

わしの膝の上で

こんなにガチガチにテントを張っておる。

未熟なモノのくせに、

主張だけは一丁前じゃなあ♡

（やや右・近）

（妖艶に囁く）

よいぞ、隠さなくてよい。

信仰心の薄れたこの村で、

わしがこうして美しく在れるのは、

坊やがこうして、

若く瑞々しい「精」を、

たっぷりと奉納してくれるおかげじゃからの。

ふふ、命の源、

わしが…ありがたく啜ってやろう。

（帯を緩め、手を伸ばす気配）

ほら、

ズボンの上からでも分かるぞ？

こんなに熱を持って、脈打って、
わしの手が触れただけで…
ピクリと跳ねよった。

(愛撫開始、ゆっくりと布越しに擦る音)
ふふっ…

こんな窮屈な布地の中に
閉じ込められておっては…可哀想じゃな…

ほれ、

邪魔な物は…全部…脱がせてやろう。

(ジッパーを下ろし、ズボンと下着をゆっくりと膝下まで引き下げる音)
ほう……

布から解放された途端…

さらに元氣よく跳ねおったわ。

よしよし、よしよし♡

ああ、すごい熱じゃ、

わしの細い指が…

根元から…

亀頭までを這うたびに…

ビクンビクンと喜びおる。

ふふ、先走りで

もう…下着がぐっしりではないか。

我慢のできない、

悪い子じゃ。

(直接触れる音、ぬちゃりとした粘着音)

ほれ、

剥いてやるぞ？

まだ…皮を被った、あどけない亀頭を、
こうやって、ねっとりど、
空気に晒してやる。

(ネットリした手淫音、クチュ、クチュ、シコシコシコ)

ふふっ、真っ赤じゃ。

まるで…熟れた果実のようじゃのう。

ほーれ、

(ごーし、ごーし連呼 8秒)

どうじゃ？

わしの柔らかな手の掌は
肉壁のように吸い付いて、
お主の弱点をしっかりと
いじめ抜いてくるじやろう。

ほーれ、ほーれ、

(ずーり連呼 8秒)

(テンポを上げる)

ほら、腰が浮いておるぞ？
もっと欲しいのか、
もっと激しく、扱いて欲しいのか？

わしの手の中で、
理性を溶かして、
獣になりたいのじやろう？

(早めずーり連呼 8秒)

(耳元で囁きながら、激しいストローク)

ほれ、ほれ♡

「ここ」がええんじやろ？

裏筋を、

爪先でカリカリと引っ搔いて

鈴口(すずぐち)を、

指の腹でグリグリと挟ってやる。

(苦悶の息遣いを楽しむように)

ふふ、あはは♡

すごい、すごいぞ坊や。

竿がこんなに膨れ上がって…

血管が浮き出て…

わしの手の中で、

「出したい、出したい」と泣き喚いておるわゝ

まだじゃ、

まだ許さぬぞ。

もっと溜めて、

もっと濃いものを、わしに寄越せ。

わしの掌を、

お主の白濁で汚したいと、

そう願うのなら…

自分で…

腰を振れ、かわいくのお♡

猿のように腰を振って、

媚びてみせよ。

(グチュグチュグチューービチャビチャー！)

そうでないとか

ほーれ、ほれー

(ずりずりコキコキ連呼 10)

(ほーれ、ほーれ連呼、3秒)
そうじゃ、その目じゃ♡

わしに溺れて、
発情しきった雄の目。

さあ、
イクのじゃ。誰も見ておらぬ。

わしの前で、
お主のその汚らわしくも甘い精液を
すべて吐き出せ。

出せっ、わしの手に、
ぶち撒けろっ！

だーっーせ♡♡

(射精の瞬間、強く根本を握る音)
(ドピュっ、ドピュっ、だらだらと垂れる音)

んんんふふっ。
ああ、出たのうっ出たのうっ、
たっっふりとっ。

(掌についた液体を弄る音、ペチペチ)
熱い、ドロドロとした、命の雫じゃ。

独特の栗の花の匂いが
あたりに充満しておる♡

(指についた精液を舐める音)

(精子飲む音 8秒)

ふふ、濃いのうち。

若い雄の味じゃ！

精力が身体に染み渡るようじゃ、

(優しく、あやすような声)

うふふ♡

すっきりしたかえ？

賢者に戻ったような呆けた顔をして、

ふふ、愛いやつ。

(左・密着 ゆっくり寝かしつけてまきまき)

さあ……そのまま、

わしの膝で眠るがよい

(少し間を置いて【歌うように】)

ふうううう

ねんねん、

ゆらり、ゆらり。

風も静かに、揺れておる。

お主の役目は終わった

ゆっくりと休め。

(撫でながら、一定のリズムで)

とん、とん。

まぶた、重く、

夢の底へ、沈んでゆけ。

よしよし、よしよし。

気持ち良さそうに寝てるの、

ういやつじゃ♡

(一瞬の間、風鈴の音が止む)

(砂利を踏む足音)

(声色が急変、絶対的な敬意と、媚びを含んだ低い声)

(中・近)

……おや

これは、これは

主様(ぬしさま)

ようこそ、お越しくございました。

(冷徹な響き)

ふふ、ええ、

ご覧の通りでございます。

この童(わらし)めが

とんだ勘違いをしております、

自分こそが

わしに選ばれた「特別な存在」だと

思い込んでおるのです。

滑稽でしょう？

(見下すような、冷たい視線を感じさせる声)

ただの“精液袋”の分際で、

身の程知らずにも、

わしの身体を独占できると夢を見て…

許せません。

主様という

真の支配者がおられるというのに、

万死に値する愚行でございます。

(艶めかしく懇願するように)

ああ、主様、わが身も心も、

この神社のすべては、再興してくださった主様のもの。

この尻尾の一本に至るまで、
貴方様の所有物でございます

え？『分かせてやれ』と？
この、世間知らずの小僧に
現実というものを？

（邪悪な歓喜に震える声）
ふふ、ふふふふつ。
承知いたしました

全ては主様の仰せのままに。
この白狐……最高の見世物を
ご披露いたしましょう。

（トラック②、薄暗い社務所、締め切った部屋の湿気、遠くで雨音）
（ゴロン、ドサつ、手足を縛られた人体が床を転がる重い音）

（中・中）
ふふ、無様な格好じゃのう、坊や。
さっきまでの夢見心地な顔はどうした？

全身ひん剥かれ、亀甲に縛られ、
埃っぽい畳の上で
芋虫のように転がされて。

……ククつ、傑作じゃ。
実に傑作じゃ。

（しゃがみ込む音、甘く危険な香り）
何を睨んでおる。
主様（ぬしさま）の慈悲じゃぞ？

この神社の所有物であるわしが、
直々に相手をしてやれと
仰せつかったのじゃ。

感謝して、涙を流すべきじゃろう。

（帯に手をかける音、シュルリ、バサツ）

ほれ、見るがよい。

普段は…

清廉な白無垢の下に隠しておった、わしの真の姿を…

……ふふ、驚いたか？

目が釘付けではないか。

西洋の娼婦が身につける、

この、なんと申したか、

『ランジェリー』という、淫らな紐じゃ。

ここの乳房など、布の面積が足りず、
先っぽがこぼれ落ちそうじゃろう。

下も透け透けのレース一枚、

隠すためではなく、雄を誘い、

発情させるためだけの、卑猥な飾り布よ。

（濡れた音、クチュ）

（自分自身の秘部を愛撫しながら）

ほら、

鼻をひくつかせて、よく嗅いでみよ。

……匂うじゃろう？

熟れた雌の匂いと、
そして、むせ返るような、
雄の匂いが。

（ねっとりとした嘲笑）

そうじゃ。

先程まで、わしは主様の寝所で、
たっぷりと可愛がられてきたのじゃ。

この股の間を、

主様の立派な一物で、

何度も何度も耕されて、

子宮の奥まで、

主様の匂いをズリ込まれてきたのじゃ。

（四つん這いで近づく、獣のような気配）

ほら、見えるか？

このレースのクロッチ、

ぐっしよりと濡れて、

主様の種とわしの愛液で、

ずっしり重たくなっておる。

まだ、熱いのじゃ。

主様の熱が、

わしの中に残っておるのじゃ。

（顔に股間を押し付ける音、グチャッ、ムギユウ）

（中・近）

んっ！

ほれ、特等席じゃぞ、坊や。

主様が種付けしたばかりの、

この神聖で猥雑な裂け目を、

お主のその、

安っぽい口で…

受け止めるがよい

(息苦しそうな呼吸音、抵抗するが逃げられない)
(さらに体重をかける)

これ

暴れるでない。

これは「掃除」じゃ。

主様の食べこぼしを、

お主のような下等な童(わらし)が舐めとる。
光栄な役目じゃろう？

ほれ、舌を出せ。

このビラビラに染み付いた主様の残り香と、
あふれ出る愛液を、
一滴残らず、啜るのじゃ。

(顔面騎乗のまま、腰をグライントさせる)
(ヌチャ、グチュグチュ、水音が激しくなる)

(中・密着)

あっ、ああ、んっ。

そうじゃ、そこじゃ。

主様にイかせられて、
敏感になっておるクリトリスを、
鼻先でコリコリと擦れ。

……ふふっ、

お主の必死な呼吸が、
まるで熱風のごとく、
わしの秘部を蒸らしてくる。
あはっ、たまらぬ、たまらぬのう！

(自己陶醉、指でさらに弄る音)
(喘ぎ声アドリブ 8秒)

（やや左・近）

ああ、主様、主様。

ご覧になっておられますか♡

この哀れな去勢犬に、

わたくしの汚れを…舐めとらせております。

ああ♡主様のモノで、

ガバガバに拡張された膣口が、

疼いて、疼いて、収まりませぬ！

（中・近）

（坊やを見下ろして、侮蔑の声）

ほら、もっと激しく舐めぬか！

お主の股間の、

その粗末な小枝はどうした？

そんなモノで、

わしを満足させられるとも思ったか？

主様の、あの丸太のように太く、

猛々しい肉棒に比べれば、

お主のなど、指先ほどにも感じぬわ！

（足で坊やの股間を踏みつける）

んゝ、貧弱じやのう。

硬さも、大きさも、熱量も。

こんなモノ、役になど立たぬ。

いつそ、ここに踏み潰してやろうか。

主様の偉大さを、

その身に刻み込みながら、

潰れてしまえ！

(絶頂への高まり、呼吸が荒くなる)

(喘ぎ声アドリブ 8秒)

ああ、くる、くるっ！

主様を思い出すだけで、

子宮が、キンキンと収縮して、
脳髓が痺れてくる！

ほら、坊や、口を開けよ。

わしは今から

主様への愛を叫びながら達するぞ？

そしてお主の喉の奥に、聖水を、

思いっきりぶち撒けてやるからの！

(激しい水音、腰を打ち付ける音、バシンバシン)

イクっ、イクぞ？

主様の、主様の性処理便器として、イクっ！

ああっ、ああっ、あああ——っ——っ！

(盛大な潮吹き音、ジョボジョボジョボ！)

(絶叫後の荒い息切れ)

はあ、はあ、んくっ、ああっ。

ふふ、酷い顔じゃ。

顔中、鼻水と、涎と、わしの潮で、
ドロドロではないか。

(ぺちっ、軽く頬を叩く音)

これ、ご馳走様も言えぬのか？

……ふふ、声も出ぬか。

(中・中)

まあよい。

主様には報告しておいてやる。

愛玩動物が…

綺麗に後始末をいたしました、とな。

(立ち上がる気配)

(中・遠)

さあ、

次のご奉仕が待っておる。

感謝して待っておれよ？

お主のような童貞でも、

まだ使い道はあるのじゃからな。

……ククッ、あはははは。

(笑い声アドリブ 5秒)

(トラック③、畳の上、男達の熱気と体臭が充満する空間)

(衣擦れ、這いずる音、冷ややかで嗜虐的な含み笑い)

(中・中)

ほれ、情けないのう。

悔しいかえ？ん？

性懲りもなく、

またわしの所へのこのこと

這い出てきおって。

……ククッ、わかっておるのか？

自分が今、

どれほど惨めな格好をしておるか。

見よ、ここに「ある」現実」を。

その曇ったまなこで、

しっかりと直視するのじゃ。

主様(ぬしさま)の剛直な肉棒と、

坊やの貧相なモノが、こうして並んでおる。

ふふ、比べるのもおこがましいが、

あえて並べてやったのじゃぞ？

(ゴクリ、喉を鳴らす音)

(主様のモノに触れる重厚な音、ギユウ)

(やや右・中)

ああ、触れて見るとわかる…

なんと…

素晴らしい…

逞(たくま)しく、凶暴で、

神々(かみがみ)しいのじやろう。

血管の一本一本が、

まるで龍のように脈打ち、熱を帯びて、

わしの掌を弾き返さんばかりの生命力じゃ。

(左・中)

(対して、軽い音で摘む、プニツ)

ふ

♡

それに比べて、なんじゃ？

この枯れ枝は。

頼りない、哀れじゃのう。

皮ばかり余らせて、色も薄く、震えておる。

こんな粗大ゴミで、

わしのあそこを貫けるとでも思ったか？

身の程を知れ、痴れ者が。

(中・近)

(左右の手で同時に動かす)

(坊やの方:指先だけで弄ぶ、ペチ、ペチ)

ほれー、

いっちょ前にビクついておるな。

さあ、このまま二本同時に扱(し)こいてやろう

ほら、主様の命令ゆえ…

特別に、格の違いを肌で教えてやろう。

(ごーし、ごーし連呼 5秒)

主様のデカイ珍宝様は、

こうしてわしの利き手で指を絡め、

肉壁のように密着させて、

奉仕させていただく。

愛おしくてたまらぬ、

ずっと握っていたいほどの、

極上の硬さじゃ。

(蔑んだ声)

だが、

お主の粗末なモノは、こうじゃ。

親指と人差指、この二本で十分。

汚いモノをつまむように、チマチマと、

皮を引っ張ってやるだけじゃ。

ほら、ズリ、ズリ、ズリ。

わかるか？

この圧倒的な待遇の差が。

（吐息が熱くなる）

ああ、主様のモノを握っているだけで、わしの股間が濡れてくる。

この太い杭で、

また貫かれない。汚されたい。

雌としての本能が、疼いてたまらぬわ。

（嘲笑）

それに引き換え、お主はどうじゃ。

たった二本の指で、

弄ばれているだけじゃというのに、

ピクピクと痙攣しておって。

……早漏が。

自分の弱さと格の低さ、しかと恥じ入るがよい。

（指の動きを少し早める、ピチャピチャ）

おや？もう限界か？

この程度の刺激で、

もう先走り汁を垂れ流して、

わしはまだ、

指先で軽く、軽く、

触れているだけなのじゃが？

ふふふ、良い気味じゃ。

そんな弱いモノは、

わしの聖域には絶対に入れさせぬ。

（デコピンの音、パチンッ！亀頭を弾く）
ほれ、イクがよい。

お前のような未熟者は、
指先で弾くだけで十分じゃ。
果てろ、無様に、独りだけで！

だーせ、

だーせ、

だーせ、

だーせ、

だーーーせ♡♡

（坊やの射精音、ビュルッ）

……あはは、トロトロと、
しまりのない液を漏らしおって。
まるで失禁じゃな。

その程度のイチモツでは、
一生女など抱けぬわ。

せいぜい、今の惨めさをオカズに
独りで慰めることじゃのう。

（やや右・近）

（空気が一変、媚びへつらう甘い声へ）

ああ、主様？

申し訳ございません。

汚いものをお見せいたしました。

ええ、ええ、

承知いたしました。

お口直しに、わたくしめが…

（坊やの方を向く、冷徹に）

おい、見学を許可してやる。

その粗チンの後始末をしながら、特等席で見るがいい。

わしが、本物のオスに、
どのように尽くすのかを、
発情しきったメス狐が、
どのように乱れるのかをな。

(中・中)

(四つん這いになり、顔を近づける)
(生々しい水音、ジュル、レロ)

ああ、いい匂い。
主様の、雄々しい麝香の香り、
いただきます。

(中・密着)

(深い吸い込み音、ジュッポ、ジュッポ)
(フェラ 8秒)

……はあ、はあ、
見ておるか、坊や。

普段…お主の前で気取っていたわしが…
こうして、主様のデカ珍宝に食らいつき、
頬をこけさせて、
夢中で吸い付いておるぞ？

(激しいフェラチオ音)

(フェラ 8秒)

おいしい、

んふっ、おちんぼ、おいしいっ！

(フェラ 8秒)

喉の奥まで、んぐっ、突き刺さって！
最高じゃ、この威圧感、この太き、
わしの口の中が主様で一杯になって、
息もできぬ！

（上目遣い、涎混じりの不明瞭な声）

ほら、ごらんください主様。
わたくしのいやらしい顔を。

白目をむいて、涎を垂らして、
貴方様の肉棒に媚びを売る、
メスの顔を！

もつと、もつと、

喉の奥を突いてください！

嗚咽を漏らすぐらい、

深くまで犯してくださいませ！

（フェラ 5秒）

（テンポアップ。バキューム音、ジュボボボっ！）

ああっ、大きくなつて、

血管が、喉粘膜を擦って、

くる、きますか、きますね！？

ください、くださいっ！

主様の濃厚な、おザーメンをくださいっ！

この卑しい口まんこに、

聖水を恵んでくださいましーっ！

（ドピュっ、ドピュっ、喉奥に放たれる音）

んんーっ！

んぐっ！

んんっ、んーっ！

（嚥下音、ゴクっ、ゴクッ）

（口から溢れる音、ダラダラ）

はあ、はあ、ああ。

すごい量、飲みきれませぬ…

口から、鼻から、溢れて、

(舌なめずり)

んちゅ、レロ。

ああ……濃い……。

ドロドロとした、命の味がする。

わしの身体が、熱く、満たされていく。

(恍惚としたため息、ビクビクと身体が震える)

ああ、わしも、

お汁を飲んだだけでイッてしまった、

頭が、真っ白じゃ。

(やや左・中)

(冷たい視線に戻る)

……おい。

まだ見ておったのか、ゴミ虫。

わしが主様の精を飲み干す様を見て、

また、恥ずかしい汁を漏らしたか？

キリがないのう……

まあよい。

それがお主にお似合いの、

一生変わらぬ「格差」…

思い知ったかえ？

(主様のモノを綺麗に舐めとる音、ペロペロ)

主様の最後の一滴は、わしの胃袋へ、

お主のゴミ汁は、床の染みへ。

よく、覚えておくことじゃな、

……うら。うら。

(トラック④、屋内、張り詰めた空気、畳に肌が張り付く音)

(二人が正座、あるいは土下座させられている気配)

(左・中)

ほら、坊や。頭が高いぞ？

主様(ぬしさま)の御前じゃ。

全身の毛穴という毛穴から

反省の汁を垂れ流して詫びるのじゃ。

わしら二人、

こうして素っ裸に剥かれ、並べられ、

全裸土下座で

許しを請うておるのじゃからな。

(床に額をズリ付ける音、衣擦れはない、皮膚の摩擦音のみ)

(媚びを含んだ、震える声)

んふおおおお♡♡

こうべを踏みつけられて……

んふう♡

は、はい！

申し訳(ご)いませぬ、主様。

この通りで(ご)います。

わしは猛省しております。

ほら、(ご)覧ください、

このあられもない姿を。

(オナニー喘ぎ 8秒)

土下座しながら、股間に手を回し、
自らズリズリと、

メス穴をコキつけて…反省しております。

はああああ♡

(オナニー喘ぎ 8秒)

(横目で坊やを睨む、低いドスの効いた声)

おい、何をしておる、

お主もやらんか！

その情けない、

しなびた棒切れちんぽを握ってな。

主様、

聞いてくださりませ。

この不屈きな童(わらし)が、

わしの寝込みを襲おうとしたのです。

神聖な主様の所有物である

このわしの体に、

あろうことが、

交尾を迫ってきたのでございませす！

ふふ、ご安心ください。

目覚めた瞬間に、

この小僧の股間を蹴り上げ、

拒絶してやりましたゆえ、

わしは、主様以外のオスには、

指一本触れさせておりませぬ。

この身の潔白と純潔は、

守り通しましたぞ？

(ドスっ、頭を踏みつけられる鈍い音)

(苦悶と歓喜が混ざった喘ぎ)

あぐっ！

おお、主様、素晴らしい！

わしの頭を、

足裏で、そんなに強く……

踏みつけてくださるのですか！

地面に顔がめり込むほど、強く、ああっ！

（罵倒される快感）

え？『この淫乱白狐が』？

『どうせお前が誘ったんだろう？』と？

『その無駄にデカイ乳房と、

締まりのない壺で、

ガキをたぶらかした罪だ』と？

（必死の弁明、しかし声は濡れている）

ち、違います、主様！

誤解でございます！

本当に、この発情した小僧が悪いのです！

し、信じて、ああっ！

もっと、もっと踏んで！

このまま踏み潰して！

（潰されて絶頂必要なぎ声 10秒）

（呼吸が荒くなる、水音が混じり始める）

ああ、でも、ダメ、

主様に踏まれている屈辱と快楽で、

股間が、勝手に熱くなって、

蜜が止まらない！

ほら、聞こえますか？

ズリズリ、ズリズリと、

わしが自分で股間をズリ上げる、

この卑猥な音が。

その小僧にも、聞かせてやるのじゃ。

（坊やを煽る）

ほら、坊や！

ぼさっとしておらんで、主様に謝罪せよ！

その枯れ木のような貧相なモノを

わしに使うなどという大それた考え、

万死に値すると、泣いて詫びるのじゃ。

（焦燥感）

早うせぬか！

主様のご機嫌を損ねれば、

わしまで捨てられてしまう。

ああ、悔しさと興奮で、

まんこの収縮が、

ズリズリの指の動きが、

早くなってしまう！

（狂気を帯びた笑い声）

こうなれば、あれじゃ。

二人で裸踊りをして、

主様をお慰めするしかないのう！

昔から、無礼を働く者は、

笑いを取って許しを乞うもの。

ほら、立て！

（立ち上がる音、ペタペタと足音が響く）

（奇妙なリズムで動き回る気配）

ほれ、ほれ！

情けない股間を、

ガニ股でさらけ出して、

へっこ、へっこ、へっこ、へっこ！

んふおふおお♡

恥ずかしいのう、

滑稽じゃのう。

わしの、この重たいデカパイを、

ボヨンボヨンと、ゆつきゆつき揺らして、

（激しい乳揺れの音、バフン、バフン）

見よ、この無様な揺れを。

下半身は愛液でビショビショになりながら

へっこ、へっこ！

へっこ、へっこ！

ああ、情けない。

神の使いが…

ただの痴女のように踊り狂って、

主様にお詫びを申し上げておりますっ！

（自分の股間を叩きながら）

（パンっ、パンっ、ピチャツ）

（左・近）

ほら坊や、お主も振れ！

わしの卑猥な踊りを見ていきり立った、

その惨めな粗チンを

フリフリ、フリフリと！

ちぎれるほど振って、

主様に許しを乞うのじゃ！

（左・密着）

手を抜くなよ？

ちよつとでも動きを止めたら、

わしが下から、

その金玉を蹴り上げて、

二度とオスとして機能せぬよう、

壊してやるからな。

（左・中）

ほら踊れ！踊れ！

もっと腰を落として、股を開け！

（主様の足元へすり寄る音）

（声色が甘く、とろけるように変化）

ああ、主様、

ご覧いただきましたか。

わしは、主様一筋でございます。

あんな、

未熟な小童（こわっぱ）の粗チンになど、
抱かれたくもありませぬ。

わしの、この一生懸命で、

情けない裸踊りに免じて、

どうか、ご機嫌を直してくださいまし。

（乱暴に胸を掴まれる音、ギチギチ）

ひいっ！？

おお、おおおっ！

デカイ乳房を、鷲掴みに、
握りつぶされる！

ゴリゴリ、ゴリゴリされて、
痛い、痛いけど、イイっ！

『この淫乱パイズリ乳が』って、違います！
このスケベなエロおっぱいは、
主様だけのために、大きく育ったのです！

（悲鳴に近い快感の声）

あひいーっ！

ち、乳首！乳首を抓り上げないで！

伸びる、伸びてしまう！

そこへ、股間に手を、太い指が！

ああっ、そこは！

（容赦ない愛撫、グチュグチュと粘膜を抉る音）

き、気持ちよくするための
愛撫じゃ、ないっ！

お仕置きじゃ、万力のような力で、
わしの女性器そのものを、
すり潰しに来ておる！

ああっ、親指で、豆が！
クリトリスが、潰れるっ！
主様、壊れる、壊れちゃう！

（錯乱状態で坊やに叫ぶ）

ほら！見ろ、その発情小僧！
わしが制裁を受けている間に、
もっと、もっとちんぽを振らんか！
主様に許してもらえ！

でなければ、わしは、

この剛指(ごうし)で掻き回されて、
主様専用の穴が、

破壊されてしまうーっ！

ほら行け！ほら踊れ！

情けなく、ヘコヘコと腰を振って、
主様の失笑を買うのじゃ！

ああ、すごい力、

挟られる、かき回される！

あ、イク、あ、イクっ！

無様に、踊りながら、イクっ！

(絶頂、潮吹きと痙攣)

イグウー……ーっ！

おほオっー！

ほおおおお♡♡♡

(ドサリと崩れ落ちる音、荒い呼吸)

(ピチャ、床に垂れる音)

……ふふ♡

わしが白目をむいてアクメした瞬間に、

あの小僧、触ってもおらん股間から、

トロトロと、情けない汁を漏らしおったわ。

(左・密着 ささやき)

……ククッ、

悔しさと、恥ずかしさで、

勝手にお漏らしとは、

本当に、惨めでございますね、主様。

(中・密着)

(チュ、レロ、深い口づけの音)

(キスフェラ 10秒)

んん、ふはっ♡

主様の、お許しのキス、

痺れた舌に、染み渡ります。

ふふ、開発され尽くして、

伸びきった乳首をコリコリされながらの

濃厚な口づけ、

わし、幸せで脳が溶けそうじゃ。

(冷徹に突き放す声)

(やや左・中)

……おい、小僧。

いつまでへたり込んでおる。

お主は一人、そこで朝まで、

裸踊りを続けるのじゃ。

止めれば……殺す。

(立ち上がる気配、襖が開く音)

(やや左・遠)

わしと主様は、これより隣の寝所で、

朝までまぐわい倒してくるゆえ、

決して覗くでないぞ？

……まあ、壁越しに聞こえる

わしの喘ぎ声と、

肉がぶつかる音をオカズに、

せいぜい、惨めに腰を振っておれ。

(遠くから声)

ふふ…せいぜい…

絶対に手の届かない極上の音をオカズに、
涙を流しながら、惨めに腰を振っておれ。
哀れで滑稽な雑魚オスが♡

(トラック⑤)

(白狐、四つん這いで突き上げられながら、坊やを見下ろす)

(中・中)

ほら、坊や、よう見えるか？

特等席じゃぞ？

お主が懂れていたこの白狐様が、

こうして床に這いつくばり、

主様(ぬしさま)の太い杭に、

後ろから、無様に貫かれている様を

(激しいピストン音、パンっ！パンっ！肉が打ち付け合う音)

(荒い喘ぎ)

あっ、あぁっ！ひぐっ！

ふううう♡♡

主様の、主様の命令じゃからな！

『身の程知らずの童(わらし)に、

格の違いというものを、

脳髓に刻み込んでやれ』と！

ほら、瞬きするなよ？

お主が、

いつか入りたいと夢見ていたこの穴は、

もう、主様専用の肉便器に

成り下がってしまったのじゃからな！

（粘着質な水音、グチュグチュ、ズポっ、ズポッ）
おおっ！入ってくる。

先端が入っただけで、子宮が震える！

全身の産毛が逆立って、

「雄が来た」と、

膈壁が勝手に歓喜しておるわ！

悔しいか？ん？

お主が使うはずだった場所じゃぞ？

それが今、目の前で、

他の雄に、こうして蹂躪されて！

（絶叫に近い喘ぎ）
あひいっ！深い！

そこっ、そこは駄目っ！

主様のデカマラで、

中をかき回されて、

脳みそが焼ける！

焼き切れるうっ！

これが現実じゃ！

お主の枯れ木のようなモノとは違う、

圧倒的な暴力！

これを知ってしまったらもう、

お主になど戻れぬわ！

（ラストスパート、激しい打突音）

（ドスっ！ドスっ！ドスっ！）

くるっ、くるっ！

主様の、熱いのが来るっ！

ください！

わしの中に、全部ください！

小童の見てる前で、孕ませてえっ！

イクっ！イグうウウウーーーーっ！！

（白濁した視界、荒い呼吸、大量の中出しを受け止める音）

（ドピュルル、ジュワア）

はぁ、はぁ、んぐっ。

熱い、煮えたぎった鉛のような精が、

胎内に、ドピュドピュと、

ああ、あふれる。

（だらしなく横たわり、虚ろな目で坊やを見る）

見たか？坊や。

これが、「絶頂」じゃ。

お主には一生かかっても出来ぬ、

高みじゃよ。

（主様の声に反応する、少し驚いたように）

……え？

主様、なんと？

『どうせやりたいだけのバカなガキだ、

一発やらせて、諦めさせろ』と？

……なんと慈悲深い♡♡

いや…残酷な命令を…

（気だるげに立ち上がり、坊やに近づく衣擦れ）

（跨る音、ヌチャ）

ふむ…感謝せよ、坊や。

主様の温情じゃ。

今から、わしのこの体を使って、
お主の童貞を散らしてやる。

これが最初で最後、一発済ませたら、
もう二度とわしに付きまとうでないぞ？

（自分の陰部を広げて見せつける）

ほら、見よ。

先程、主様にたっぷりと拡張され、
ガバガバになった、
締まりのない穴じゃ。

主様の白濁が、
まだポタポタと垂れておる。

……興奮するか？

他の雄に汚されたばかりの穴でも、
お主にはご馳走か？

ふふ、そのガチガチの粗チンが、答えじゃな。

（挿入、ヌルリ）

（中・近）

では、入れてやるぞ？

主様の食べ残しじゃが、
味わうが良い。

ほれ、んッ。

……ふう、なんじゃこれは。

主様の後じゃからか、まるで空気じゃ。
スカスカで、頼りないのう、ふふ。

（腰をゆっくり上下させる）

どうじゃ？念願の、
白狐との交尾は…

お主の初めての女は、
主様に食い荒らされた後の、
このふしだらな雌狐じゃ。

哀れじゃのう、
惨めじゃのう。

この感触、死ぬまで忘れるでないぞ？

（動きが徐々に激しくなる、ズつ、ズつ）

ん？、おや？

なんじゃ、お主。

中で、急に硬くなりおったな。

小指ほどしかなかったモノが、

血走って、脈打って、

んっ！あぁっ！

意外と、奥まで、届くではないか。

（焦りと、予期せぬ快感）

バカなあり得ぬな…

主様の巨根に開発されきった

このガバガバの肉壺が、

こんな童貞の未熟な突き上げで
うずくなんて。

（やや右・密着）

あっ、ひっ！そっ！

（右・密着）

生意気じゃ、生意気じゃ！

ガキのくせに！

（否定しながらも、激しく腰を振る音）
勘違いするのではないぞ

これは、

主様の教育が良いからじゃ！

お主のような粗チンでも

気持ちよくなるように、

主様が舐けてくださっているのじゃ！

ほら！

ギウギウしてやる！

ありがたく思え！

搾り取ってやる！

ほらいケ、

さっさとイケ！

こんなもの…すぐ終わらせてくれる

主様の前で、これ以上…

醜態はさらせぬ…

ほれ

わしの、この熟れきった肉壺で、

お主のなけなしの種を、

一滴残らず吸い尽くしてやるわ！

(激しいピストン音、パンツ、パンツ、ジュチュッ！)

ほれ、

ズッコバコ、ズッコバコ。

ズッコバコ、ズッコバコ。

どうじゃ？

主様に広げられたばかりの、

この熱くてだらしない粘膜に吸い付かれて。

お主のちっぽけなモノなど、丸呑みじゃ！

(さらに腰の動きを早める。激しい水音と肉のぶつかる音)
あははっ！すごい顔じゃ！

息を乱して、涎を垂らして……もう限界か？
これ、さっさと果てろ！

もっと奥の奥まで、激
しく擦り上げてやる！

デカパイも、この淫乱尻も、
全部お主のために
揺らしてやってるんじゃないぞ！

（バフン、バフンと胸が揺れる音、グチャグチュと卑猥な水音）
わかるか？

わしが腰を打ち付けるたびに、
お主の根元までわしの蜜で
びちゃびちゃに濡らしてやってるんじゃない！

主様の匂いがたつぷりと染み付いたこの奥で、
情けなく果てるがいい！

ほれ、

負けろ！

負けろ！

負けろ！

（絶頂へ）

ん？くるか？くるんじゃないろ！？

お主のイチモツが、

破裂しそうに膨れ上がっておる！

出せ、全部空っぽにしろ！

ゼロになるまで、

一滴も残さず、全部置いていけっ！

3…2…1…

だせ、だせ

だーーーーーぜ♡♡♡

いけえええええええ！

（射精の瞬間、強く抱きしめる音）

（ドピュっ！ドピュっ！ドクン、ドクン）
んんーっ！ああっ、熱っ！

出た、出おった、

ぴゅっぴゅと、勢いよく飛ばしおって、

んくっ、主様よりも深い……

子宮の入り口を叩きおった。

（荒い呼吸、放心状態）

はあ、はあ、くう、

しかし…

なんという量じゃ。

（自分の顔を触る音）

（中・近）

……な、なんじゃ、

わしは別に…

感じてなどおらぬぞ？

顔が赤いのは、

運動したからじゃ。

尻尾が、勝手に動いているのも、

ただの生理現象じゃ！

勘違いするな！

（身を起こし、衣服を整える音）

（一転して、静かな、しかし力強い声）

……ほら、これで、

お主の「初めて」は、全てわしが奪った。
もう未練はないな？

(近づいて、不意打ちのキス)

(長めのリップ音)

(キスフェラ 10秒)

(中・密着)

……ん、

今生の別れのキスじゃ。
達者でな。

(去り際に、背中越しに)

(中・中)

……なんじゃと？

『絶対に諦めない』？

ふん、大口を叩くのう。

わしの身も心も、

主様のものだと言うのに。

(立ち止まる気配)

(左・密着)

……まあ、よい。

もしお主が、いつか主様をも凌ぐ、

本物の「権力者(おとこ)」になったら、

……その時は、考えてやらんでもない。

精々、励むことじゃな、坊や。